NIHON UNIVERSITY DISTANCE LEARNING DIVISION ALUMNI ASSOCIATION

日本大学 通信教育部校友会報

発行所：日本大学通信教育部校友会　〒102-8005　東京都千代田区九段南4-8-28　日本大学通信教育部内　TEL・FAX　03（3234）5858
発行責任者：白戸 忠志／編集責任者：師田 袈裟茂　　通信教育部校友会ホームページ：http://www.nudld-koyukai.sakura.ne.jp/wp/

子曰、
當仁不讓於師、
先生が言われた、「仁徳（を行なう）に
あたっては、先生にも遠慮はいらない」
『論語』

平成29年元旦　謹賀新年

新年のご挨拶

日本大学通信教育部校友会
会長　白戸 忠志

新年明けましておめでとうございます。

全国校友の皆様に、心から新年のご挨拶を申し上げます。

この一年、校友会に対し、皆様からのご支援、ご厚情に感謝申し上げます。

昨年は台風の集中豪雨による河川の氾濫、地震や噴火など、天災に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

昭和47年5月に発足した私たちの校友会は今年で45年になりました。通信教育課程で学ばれ、それぞれの学部学科を専攻し卒業された昨年の9月卒業生139名をお迎えし通信教育部校友会の正会員は34，216名となりました。

通信教育部校友会では、日本大学の通信教育課程を卒業すれば、通信教育部校友会の正会員となります（会則第6条の1）。また、専攻された学部の卒業生でもあります。各学部にはそれぞれ校友会があり、会員相互の親睦、向上と大学の振興に寄与することを目的に活動しています。

この学部別校友会と同等に通信教育部校友会が活動できるのも45年前に通信教育部校友会設立にご尽力いただき、今日までの発展にご協力いただいた諸先輩のお力です。この歴史ある通信教育部校友会をこれからも発展していかねばなりません。

新年にあたり今後の校友会を考えて見たいと思います。少子高齢化はこれからも進みます。望めば大学での勉学は誰でも受けられる時代になっております。通信教育は老若男女を問わず全国で学べる学習方法です。校友会でも学生の増員にこれからも積極的に取組んでまいります。また、大学に協力し、学生支援に取組み、卒業生が増えれば校友会の活性化にもつながると思っております。たとえばホームカミングデーの実施、学生の「科目修得試験」に必要な「過去問集」の発行なども校友会の新規事業として取組んでおります。

これからの通信教育部校友会の発展は支部の活性化が不可欠です。ブロック総会、支部総会の開催補助、本部総会の出席には交通費、また会報発送にも補助費が予算に組まれております。支部発展に活用してください。

通信教育部校友会では特別表彰制度を昨年度より実施することになりました。校友会役員として活動され、満88歳（米寿）になられた方が対象です。詳細は会報第87号で確認し、支部長は事務局まで推薦してください。ブロック総会又は本部総会で表彰状と記念品をお渡しいたします。

ブロック総会や支部総会に参加して校友会の活性は支部が中心であると改めて認識しました。少ない予算で支部の運営は厳しいと思いますが、支部長を支援し支部発展に協力下さい。また本部役員も積極的に推薦して下さい。

1月21日(土)に桜門会館で新年会が開催されます。大学教職員の方々、学生、他学部校友会役員の皆さんなど多くの方が参加できる楽しい行事を計画、5月20日(土)は第46回定期総会を予定しております。校友の皆さん、ご参加下さい。

日本大学校友会本部では、平成31年の創立130周年に向けての記念事業を実施しております。詳細につきましては本部校友会誌「桜縁」や「日大新聞」などで確認して下さい。

通信教育部校友会にも記念事業について要請があります。校友の皆様のご協力をお願い致します。

新年に当たり、校友皆様のご多幸を心からお祈り申し上げ、今までと同様ご理解とご協力をお願いし、新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

日本大学通信教育部
部長　関根 二三夫

全国校友の皆様、新年明けましておめでとうございます。申年から酉年へと年が移り、国内外の情勢が程よく纏まり、幸せを取り込む年になることを期待したいと思います。

さて、通信教育部が水道橋から市ヶ谷に移転して2年3か月余りが過ぎました。交通至便な立地で、校舎に面する靖国通りの歩道は、日中人通りが絶えません。道行く人が校舎入口に備えられた入学案内を手にして、向学心が呼び覚まされているように感じられます。高等教育機関としての大学通信教育部は、様々な理由で高等教育を受ける機会を制約された人々に、その機会を提供するとともに、それとは異なる重要な働きをも同時に有しております。つまり生涯学習機関としての働きがあります。勉学を始めることに遅過ぎるということはなく、社会の中でふと立ち止まって、このままで良いだろうかと考えた時、人によっては大学卒業資格の取得、教員免許状の取得、職業上の知識の習得など様々なことが思い浮かぶでしょう。そのような要求に応えられるのが通信制大学です。この2年余りの入学者を見ておりますと、社会人がかなり増えております。平成28年度の入学者数は4月生及び10月生を含めますと、日本大学通信教育部では2，000名の大台を越えました。社会的なニーズの高まりを強く感じます。

さて、昨年の夏期スクーリングでは、様々な催し物がありました。危機管理をテーマにした講演会、世界文化遺産を巡る下町見学ツアー、校友の参加が実現した日本芸能文化鑑賞会、震災復興を目的とした福島物産展が開催されました。さらに、通信教育部では初めてのホームカミングデーを実施致しました。校友会の白戸会長や鈴木幹事長の長年の熱意が実を結びました。日頃1人で勉強することが多い学生の皆さんが一堂に会する暑い夏の時期に、校友会、学生そして大学の三者が一体となった諸行事を計画しそれに参加したことが、学生の母校愛を強め、連帯感を多少でも強めることに繋がったように思います。

約40年位前の記憶になりますが、当時の日大両国講堂で、県人会が競って当地の物産を販売していたことを思い出します。かなり賑やかで活気があり、日大の底力を感じました。そのようなことがまた復活すれば良いとの期待を込めて、通信教育部で様々なことが計画されました。大学をご卒業されて幾星霜が過ぎ、立地も代わり、校舎も新しくなり、先生方の顔ぶれもかなり変わりました。そのような中で、OBやOGの皆様に来校して頂き、IT時代に対応した校舎を見学し、若手の教員の講義を聴講し、芸能会の妙技を鑑賞し、そして懇親会により親睦を深めて頂いた次第です。

日本大学通信教育部は、今年も校友の皆様及び学生を大切にし、共に歩んでいけます様に努力をして行く所存でございます。穏やかな1年になりますことを祈念致しまして、新年を寿ぎ、ご挨拶と致します。

丁酉への期待

学校法人日本大学理事長
日本大学校友会会長
田中 英壽

通信教育部校友会会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。平成28年はどのような一年でしたでしょうか。世間ではリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックで盛り上がり、本学の校友も大変活躍し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに期待が膨らむ明るい年でありました。日本大学は今年で創立128年目を迎え、創立130周年まであと2年となりました。

平成23年に「日大再生10年計画」を宣言し、その核となる130周年記念事業は着実に進んでおります。平成26年に日本大学病院の開院、平成27年に日本大学藤沢小学校の開校、平成28年に新学部としては昭和63年に薬学部が設置されて以来、28年振りとなる「危機管理学部」と「スポーツ科学部」を開設しました。また、この間遠隔地の学生の負担軽減を実現することになる学生寮を7棟建設し、今年の4月には東京都稲城市に300名収容の男子寮がオープンします。平成28年度の大学入試におきましては、志願者数が実に17年ぶりに10万人を超えました。これは今まで推進してきた事業が実を結び、受験生やその保護者をはじめ多くの方々に評価されてきた証の一つであると自負しております。平成30年11月に創設70周年となる通信教育部においても、平成26年9月、市ヶ谷にキャンパス移転後は、学生数が増加傾向にあり、昨年4月から学修支援センターを設置することで、更なる学生へのサポート体制の充実を図っております。しかし、喜んでばかりもいられません。2018年の18歳人口の減少に加え、私立大学経常費補助金交付に係る入学定員超過率は段階的に引き下げられ、平成30年度には現行の1・17倍から1・1倍となります。また、認可申請に係る平均入学定員超過率は、平成31年度には1・05倍未満となります。学生からの学納金収入により運営する私立大学にとっては、財政面で非常な負担を強いられることとなります。だからといって、立ち止まっているわけにはいきません。日本一の総合大学の強みを生かし、「日本一教育力のある大学」を目指し、これからも様々な改革を立案し実行に移し、その成果を上げていくことをお約束いたします。2017年は丁酉です。この年は仕事や挑戦してきたことへの結果や果実を勝ち取るという特徴があるそうです。今後の日本大学に大いに期待していただき、日本大学と日本大学校友会の発展のため、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。

校友の皆様にとってすばらしい年となり、通信教育部校友会が更に発展されることを心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。